

## 解答

⑤

「独」の字に着目しよう。限定形で「ひとりゝのみ」と訓み、「ゝだけ」の意だ。限定する語に副助詞の「のみ」を付けることがポイントで、選択肢を見ると、書き下し文に「のみ」とない②・③・④が早くも消去できる。

残るは①と⑤であるが、文脈から判断しよう。傍線部の直前では、三十頭あまりいた驃馬を、粵に帰る際に知人に贈ったこと、直後では、この驃馬を従えて鎮安に至ったことが述べられている。この驃馬だけは、手放せなかったということである。

傍線部の「不忍」は、現代語でも「ゝするに忍びない」と言うように、「ゝすることに耐えられない・ゝできない」の意で用いられる。ここは①のように訓むよりも、「棄」から返り、「この驃馬だけは棄てることができなかつた」と解釈した方が、文意が通じる。よって、「棄つるに忍びず」と訓んでいる⑤が正解と判定できる。

限定形は、実は「ひとり（ただ）ゝのみ」と訓めば終わりというわけではなく、**どの語を限定するかということが解釈するうえで重要**になってくる。このあと第24講で解説したので、理解を確かなものとしてほしい。

## 選択肢チェック

問 傍線部A「独此驃不忍棄」の返り点の付け方と書き下し文

の組合せとして最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

A ⑤ 独此驃不忍棄

① 独此驃不<sub>レ</sub>忍棄 独り此の驃のみ忍ばずして棄つ

② 独此驃不<sub>二</sub>忍棄<sub>一</sub> 独り此の驃は忍びて棄てず

③ 独<sub>二</sub>此驃<sub>一</sub>不<sub>二</sub>忍棄<sub>一</sub> 此の驃を独りにして忍びて棄てず

④ 独<sub>二</sub>此驃<sub>一</sub>不<sub>レ</sub>忍棄 此の驃を独りにして忍ばずして棄つ

⑤ 独此驃不<sub>レ</sub>忍棄 独り此の驃のみ棄つるに忍びず

「のみ」がないので×

「不忍ゝ」ゝするに忍びず

ゝすることに耐えられない・ゝできない

### 書き下し文

時に驛馬三十余有り、粵に帰るの時、  
 尽く以て同人に贈るに、独り此の驛のみ  
 棄つるに忍びず。随へて鎮安に至れば、青  
 芻香秣もて、稍其の勞に酬ゆ。調りて広州  
 に守たるに、亦た随へ往く。後に余黔に赴  
 くに、水を上ること四千里、載せ往く能は  
 ず。遂に番禺の張令に送るに、甫めて一夕  
 にして死す。豈に此の驛宿世余に負ふ所有  
 りて、之をして宿逋を償はしむるか。抑  
 其の性貞烈にして、主を易ふるを肯ぜずし  
 て自ら斃るるか。

### 現代語訳

そのころ驛馬が三十頭あまりいて、粵に帰る時にすべて  
 知人に贈ったが、この驛馬だけは手放せなかった。引き連  
 れて鎮安に着くと、新鮮でおいしい飼料を与えて少しばか  
 りその勞に酬いた。広州の長官に転任した際も連れていつ  
 た。その後、黔に赴任する時は、四千里ほど川を上るため  
 一緒に船に載せることができず、とうとう番禺の張令に  
 贈ったところ、一晩で死んでしまった。この驛馬は前世で  
 私に負債があつて、現世で驛馬に生まれ変わって私に償わ  
 せたのだろうか。あるいは、物事の筋を通す性格で、主人  
 を代えることが受け入れられず自ら死を選んだのだろうか。

### 重要語句

- 豈 文末で「ンヤ」と送り仮名されていないので、ここでは反語ではなく疑問である。
- 抑 接続詞で「そもそも」と訓む。「それとも・あるいは」の意。